

Report

ジュニアヨットスクール葉山 活動レポート⑬

またひと回り逞しく！ 4泊5日の「浜名湖夏季合宿」を実施



ロンドン五輪に出場した原田龍之介選手らが特別コーチとして参加。実戦的な直接指導でスクール生の成長をサポートした

ジュニアヨットスクール葉山では、7月31日(水)から8月4日(日)までの4泊5日の日程で、静岡県立三ヶ日青年の家(静岡県湖西市)をベースに「浜名湖夏季合宿」を実施しました。この合宿は、連日の集中的な海上練習や各種講習会の実施によりセーリング技術のさらなる向上をめざすと同時に、年齢に応じた役割分担による集団生活やチーム行動への適応、さらに自然・水辺体験機会の創出などを目的として毎年夏休みに実施しています。

今年是一般社団法人ジュニアヨットクラブ連盟(JJYU)の「ジュニアヨットクラブジャンボリー2013」に参加した全国のジュニアセーラーとともに合同練習を行ったほか、ロンドン五輪 470 級日本代表の原田龍之介選手、リオ五輪出場をめざす原田小夜子選手、また公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS)の柳敏晴理事(神戸常磐大学教授)らが特別コーチとして参加して 19 名のスクール生たちへの指導を行いました。



JJYU との合同練習により、全国のジュニアセーラーたちと交流。合同でレースも行った



ベーシッククラスの低学年も5日分の荷物を自ら担いで参加



規律正しい生活のため早朝からウェイクアップ運動で始動



「上達したい子はメモをとろう!」と、原田特別コーチ



柳特別コーチの講義のテーマは「シーマンシップ」



JJYU の子どもたちとともにオープンビッグも初体験



カヌーやスタンドアップパドルボードにもチャレンジ



常に下級生に目を配り、必要があれば手を貸す上級生



三ヶ日青年の家の職員から食育についての講義も受けた



連日の海上練習に多数のスクール生が急成長を見せた



つぶて島までの回航レースを JJYU と合同で実施

参加者の感想

《クラブ生》 藤波知己さん(中3)



「普段は練習して上達のきっかけをつかんだとしても、また海に出られるまで1週間待たなくてはなりません。でも合宿では毎日ヨットに乗って同じ練習を繰り返すことができるので、課題を持って取り組めばしっかり上達することができる。今回は自分なりに“マーク回航をスムーズにできるようになって帰る”という目標を持って参加して、実際はかなり上達できたと思います。残念だったのは、つぶて島往復のレースでコースを間違えてしまい、優勝できなかったこと。それから上級生として小さな子たちの指導をしなければならなかったのですが、叱らなければいけないことや褒めるべきこと、その使い分けをもう少し上手にできるようにしなければいけないなと思いました。でも、とても充実した5日間になりました」

《スクール生》 山田飛鳥さん(小5)・悠月さん(小3) 兄妹



「たくさんヨットに乗ることができて楽しかったです。特に金曜日は風が強くて、今までよりスピードが出て迫力がありました。同じ日にマストが折れてしまってモーターボートに助けもらったのですが、港まで引っ張られていくときも楽しい気持ちになりました。家を出るときにお母さんに妹の面倒をよく見るように言われましたが、普段はわがままばかり言っている妹もみんなと仲良くして楽しそうでした。今日帰るのが少し残念で、もう少しここでみんなと練習したかったです」

《指導者》 湯原浩一ヘッドコーチ



集団生活の中で規律を身につけることも合宿の目的の一つ。練習後の海への挨拶もその一つ

「この合宿では、連日海上練習を重ねることによって、主に春から夏にかけて身につけてきたセーリング技術をもう一段ステップアップさせることを目的にしています。今回初めて JJYU との合同練習にも取り組んだことで、相互に刺激を与え合う場面も多数見られました。また、互いの親睦を図りながらさらに水辺に親しむために、今回はスタンドアップパドルボードやカヌー、オープンビッグ級など、普段は体験することのない水辺の乗りものにもチャレンジしました。合宿には小学2年生から中学3年生までの19人が参加しましたが、各グループのリーダーが、年齢に応じて振り分けられた部屋係、食事係、伝達係などを統率して、規律正しい5日間が過ごせたと思います。準備や後片付けなどを率先して行うスクール生や、下級生を心配りする上級生も見られ、お互いの仲間意識や集団行動の規律という点でも成長し、絆を深めたように感じています。また、特別コーチの皆さんによる直接指導や講習はスクール生にとってとても貴重な経験になりました。早朝の運動から夕食後の講習まで子どもたちにとってはハードな5日間だったと思いますが、最後までみんなよく頑張り、笑顔で帰宅できたことを嬉しく感じています」